

脆弱性関連情報データベースの機能拡張の開発

1. 背景

「脆弱性情報提供手法の試行研究」の成果として、国内で開発・使用されている製品の脆弱性情報を、国内外でよりスムーズに流通させる仕組みが整備された。より効果的な脆弱性情報提供となるように、英語化による国際的取り組みの推進、及びJVNRSS¹等への対応強化による自動的な情報流通基盤整備が必要とされている。

2. 目的

「脆弱性情報提供手法の試行研究」の成果として構築した情報流通基盤の強化として、次の項目を目的とした。

- 国内製品の脆弱性情報を海外へ発信し国際的取り組みを推進
- 利用者の更なる情報収集効率化
- 内部的な運用の効率化

上述の目的を支援するために脆弱性関連情報データベースシステムの機能拡張を行った。

3. 開発の内容

「表 1 機能拡張」に挙げた機能拡張を行うことで、それぞれの目的の支援をシステム化した。

表 1 機能拡張

目的	手段	機能拡張
国内製品の脆弱性情報を海外へ発信し国際的取り組みを推進	英語での情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 英語のトップページ生成機能（日本語のトップページとは独立した運用の実現、英語トップページ向けのメンテナンス情報管理） ➢ 英語の脆弱性情報検索機能 ➢ 英語のJVNRSS 配信（新着／更新／年毎）機能 ➢ 英語版 CVSS²評価 FLASH へのリンク対応
利用者の更なる情報収集効率化	新着／更新情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 新着／更新情報の区別表示
	検索機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ベンダ名のみでの検索対応 ➢ 検索結果ソート順の昇順/降順切り替え対応
	JVNRSS 情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 新着情報の配信 ➢ JVNRSS 配信（新着／更新／年毎）の mod_sec³対応

¹ JVNRSS (JVN RDF Site Summary)は、JVNに掲載されている対策情報を配信するためのXMLフォーマット。RSS1.0の仕様に規定されている要素に対して、JVNRSSではその記載内容に規約を設けている。

参照：<http://jvn.jp/rss/jvnrss.html>

² CVSS (Common Vulnerability Scoring System)は、システムに対する脆弱性によるリスクを一定の基準と算式で評価するための仕組みです。標準化を目的として、FIRST (Forum of Incident Response and Security Teams)によって作られました。参照：<http://www.first.org/cvss/>

³ mod_secは、JVNRSSを拡張する仕様です。この拡張により、参考情報をその情報源（例：JVN、US-CERT）と、情報源に固有のID（例：JVN#01234567、VU#0123456）に分けて識別できるようになる。

参照：http://jvnrss.ise.chuo-u.ac.jp/jtg/mod_sec/

	脆弱性情報の強化	➤ 画像による概要説明のための画像情報設定機能
	Web サイトの完全性の保証	➤ SSL 対応
内部的な運用の効率化	脆弱性情報管理作業改善	➤ 英語の脆弱性情報検索機能 ➤ 脆弱性情報の公開ログ保存機能 ➤ ID 発番のタイミング変更
	ベンダのアドバイザー名管理	➤ ベンダアドバイザーリマスタ管理機能
	ベンダ情報取得の効率化	➤ ベンダ情報での外部JVNRSS マッチング機能

4. 従来技術との相違

機能拡張の開発により、国内製品の脆弱性情報を英語で発信する仕組みが実装されるとともに、利用者の多様な情報収集ニーズに沿った機能強化が図られている。また、システムを効率的に運用するための最適化が図られている。

5. 期待される効果

本開発により次のような効果が期待される。

- ・ 英語圏の利用者が国内製品の脆弱性情報を英語で取得可能となり、国際的取り組みの推進が期待される。
- ・ 利用者の多様な情報収集ニーズに沿った機能強化により、利用者の情報収集効率化と利用者の増加が期待される。
- ・ システムの最適化により、運用負荷軽減が期待される。

6. 開発者名（所属）

佐久間 吉則、遠藤 哲生（株式会社ラック）

（参考）開発者 URL <http://www.lac.co.jp/>